

VOICE

英語の先生は、
英語の楽しさの
案内人。

活躍する卒業生 2

武生第二中学校
英語教諭

太田 萌

OHTA MEGUMI

仁愛大学コミュニケーション学科
英語コミュニケーション系2011年度卒
(福井農林高校出身)

1年生から3年生まで、それぞれの学年で、週4時間の英語の授業を担当しさらに1年生のクラス担任も務める——。忙しい日々の中でも、常に心掛けているのは、ただ単に教えるのではなく、英語の世界に浸る楽しさを、子どもたちに体験させてあげること。思い出すのは、大学時代に教わった英語の講義。そこにあったのは、相手の文化的背景を理解し、英語を道具にコミュニケーションを取る楽しさだ。英語に触れることに喜びを感じる子どもたちが、ひとりでも多くなることを願い、今日も教壇に立つ。



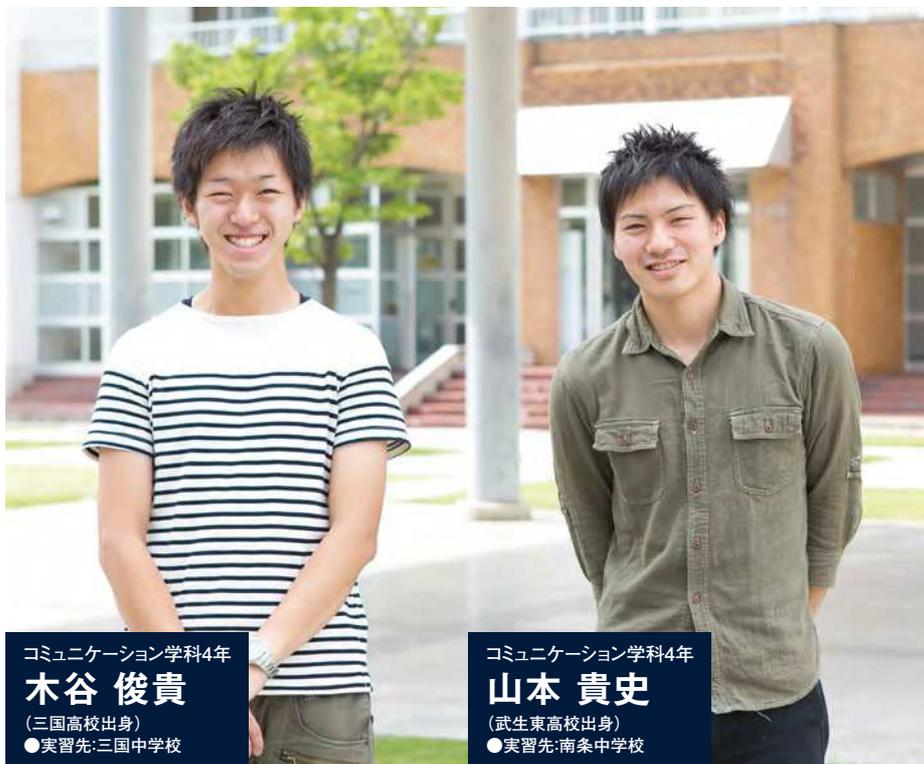
ACTION
COM!

未来の英語教師

社会が求める、
明日のジブンへ

Vol.2 英語コミュニケーション系

出身中学校での教育実習



コミュニケーション学科4年

木谷 俊貴

(三国高校出身)

●実習先:三国中学校

コミュニケーション学科4年

山本 貴史

(武生東高校出身)

●実習先:南条中学校



朝の会に始まり、授業、給食、掃除、部活まで、教育実習では生徒たちと一日を過ごします。大学の講義では体験できないリアルな教育の現場を、肌で感じることができます。



次に生徒たちの前に立つ時は、ぜひ、先生として。

大学で学んだ指導法が活かせた。より強くなった、英語教師への想い。

木谷: 本学科では、4年次に出身中学校で2週間の教育実習を行っています。大学で学んできたことを教育の現場で実践し、実際の生徒に対する理解度を向上させ、教師の視点で眺めることが主な目的です。

山本: 授業では、大学で学んだ指導法が活かされました。特に発音記号の読み方などをスムーズに教えることができたように感じます。ただ、時間配分は苦労しましたね。生徒は学力レベルが異なるので、なかなか学習指導案通

りにはいかないことを、授業後、指導の先生から教わりました。

木谷: 大学の模擬授業で学んだ、生徒とのコミュニケーションの取り方も役立ちました。「生徒に合わせて教える」ことの大切さを学べて良かったです。

山本: 多様な経験を得られた教育実習でしたが、実は何よりの収穫は、生徒から「先生」と呼んでもらえたことかもしれません。教師への想いが、より強くなりました!

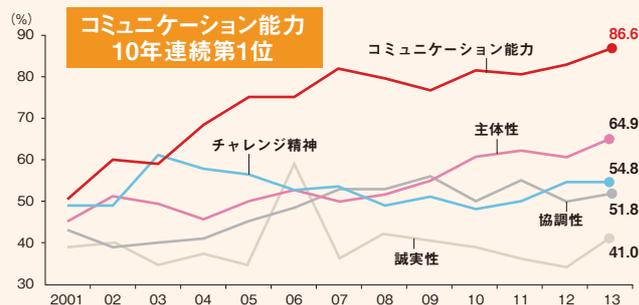
コミュニケーション学科で取得可能な
免許&資格

- 中学校教諭一種免許状(英語)
 - 高等学校教諭一種免許状(英語)
 - 社会調査士
- ※TOEIC受験も支援します。

データで見る、コミュニケーション力

企業が重視する、コミュニケーション力。

右のグラフは、日本経済団体連合会の会員企業のうち1,301社を対象に行った調査の結果(回答583社)を表したものです。企業が大学の新卒者を採用する際に、どんな能力を重視しているかがわかります。学生に求めている能力の第1位は、なんと10年連続で「コミュニケーション力」です。



※日本経済団体連合会「新卒採用(2013年4月入社対象)に関するアンケート調査結果の概要」